



創立60周年記念式典



連合駿台会報

No.315 平成26年5月15日発行
 発行・編集 連合駿台会
 発行人 広報委員長・齋藤柳光
 編集人 事務局・矢嶋まゆ子
 〒101-0052 千代田区神田小川町三十二
 明治大学「紫紺館」内
 電話 (〇三) 三二九六一四七七
 印刷 有限会社 美創

連合駿台会創立六十周年記念例会

平成二十六年三月十九日、東京會館「ローム」におきまして、連合駿台会創立六十周年記念例会が開催されました。当日は理事長、学長、大学幹部、評議員などのご臨席を賜り、会員やご家族・ご友人も含め、二百人近い方々が出席されました。

第一部の記念式典の冒頭では、山口政廣会長が「連合駿台会の前身である茗水クラブは、第二次世界大戦終戦後八年が経過した昭和二十八年、母校愛と理想、気概に満ちて結成された。グローバル化していく中でも、この理念を継承して大学を支援していきたい。また会員交流と自己研鑽にも努めてほしい」と述べました。

続いて日高憲三・明治大学理事長が連合駿台会・茗水クラブの結成の経緯について語られ、「(初代会長で)日本鋼管(社長)の渡辺政人さんが『明治大学はもっと先輩が活躍しなければならぬのに、結束も弱く人も少

ない。しっかりしなければ駄目だ』とよく叱っておられた。校友が活躍することは大学にとって大事であり、大学も全力を挙げて発展に努めていく。学術研究につとめ、校友が誇れる大学にする。そして皆さんとより深い関係になっていくことを願っている」と熱意のこもったお話がありました。

その後連合駿台会として第一代、第三代会長を務められた河野典男様と、第二代会長で、前明治大学理事長の長堀守弘様に、記念品が贈られました。記念品は彫刻家の山田朝彦会員が制作されましたフクロウの彫像です。フクロウは知恵の守り神であり、これからも連合駿台会を大所高所からお見守りいただければと思います。

式典の後の第二部では、加藤登紀子さんの記念コンサートが催されました。加藤さんは震災を契機により音楽活動にいそままれており、震災直後に作った『今どこにいますか』、父親を亡くした少年の話を読んで作った『青いこいのぼりと白いカーネーション』を歌われました。そしておなじみのエディット・ピアフの『愛の讃歌』、『百万本のバラ』、『知床旅情』を歌い、最後は明るい曲である『富士山だ』で盛り上がり、あつという間に一時間のライブは幕となりました。ご夫妻でお越しの方々も多く、加藤さんの美声に酔いしれておられました。

会場を隣に移して行われた懇親会では、福宮賢一・明治大学長の乾杯の発声でパーティーが始まりました。そしてゲストとして先日第十三代日本野球機構コミッショナーに就任され、当会会員でもある熊崎勝彦様から、プロの球にかける思いを語っていただきました。
楽しい時間はあっという間に過ぎ、校歌斉唱と橋口隆二・明治大学常勤理事の閉会挨拶でお開きとなりました。盛りだくさんで、六十周年を記念するにふさわしい、充実した内容になりました。

◆新入会員ご紹介

前回までの理事会で承認され、入会された方をご紹介します。(敬称略・到着順)



西澤 豊
にしざわ ゆたか
昭和四十九年・政経学部卒
(株)時事通信社
代表取締役社長
神奈川県横浜市在住



山上 雅隆
やまかみ まさたか
昭和四十三年・法学部卒
学校法人明治大学評議員
東京都八王子市在住



沓掛 英二
くつかけ えいじ
昭和五十九年・政経学部卒
野村不動産ホールディングス(株)
代表取締役副社長執行役員
神奈川県横浜市在住



稲垣 治
いながき おさむ
昭和五十二年・商学部卒
リリカラ(株)
取締役常務執行役員
神奈川県横浜市在住



村山 友彦
むらやま ともひこ
平成九年・農学部卒
(株)大同フレッドシンプカントリケラ
代表取締役社長兼支配人
東京都世田谷区在住



坂田 政一
さかた まさかず
昭和五十八年・工学部卒
富士ゼロックスアドバンステクノロジ(株)
取締役常務執行役員
神奈川県横浜市在住



向井 良平
むかい りょうへい
昭和五十四年・工学部卒
(株)豊幸・専務取締役
(平成十六年六月取締役社長就任予定)
愛知県名古屋市在住



坂本 道昭
さかもと みちあき
昭和四十八年・工学部卒
(株)アーバンコンサルタンツ
代表取締役
東京都千代田区在住



玉村 眞也
たまむら しんや
昭和六十年・商学部卒
(株)ピーアールセンター
常務取締役
北海道札幌市在住

◆訃報

会員の真野孝志氏(昭和三十五年・政経学部卒、明治大学評議員、富士商会(株)顧問)が、平成二十六年四月一日に逝去されました。享年七十七歳。
ご冥福を心からお祈り申し上げます。

◆明大ニュース

●教員人事 新役職者が決定
任期満了にともなう新役職者が四月一日付で就任した。

法学部は間宮勇教授、経営学部は牛丸元教授、国際日本学部は横田雅弘教授が新学部長に就任。石川幹人情報コミュニケーション学部長、小笠原英司大学院長は再任された。附属明治高等学校長兼付属明治中学校長に

は、安藏伸治政治経済学部教授が就任した。六氏は寄附行為第十七条第二項第一号により、同日付で職務上の評議員となった。

● 連合父母会

優秀学生八十九人に学部長奨励賞

連合父母会が優秀な学生を表彰する「学部長奨励賞」の授賞式が各学部の新入生や学部生のガイダンス会場などで行われ、受賞者八十九人に賞状と記念品が手渡された。

この賞は、学部二年生（経営学部のみ三年生）までの課程を修了した学生の中から、学業成績の優秀者を表彰するもの。在学生の学業の励みにもうととともに、新入生の勉学に対する動機づけの一助となるよう、一九九六年度から実施している。

● 生田キャンパス 農学部の実験研究棟

生田第一校舎六号館が竣工

農学部の新たな実験研究棟となる生田第一校舎六号館の竣工式が四月十八日に執り行われ、日高憲三理事長、福宮賢一学長、早瀬文孝農学部長ら大学役員・役職者のほか、設計監理者や施工者など約五十人が出席した。

六号館は地下一階・地上四階建て（延床面積約五三〇〇㎡）で、圃場や温室のある生田キャンパス南寄りの丘陵地の一角に立地。教室や通常の実験室・研究室以外に、遺伝子

組換え体を扱う培養室や、最上階には日影の影響を受けない閉鎖系ガラス温室を設けたほか、通風・採光に優れた吹抜けや休憩スペースも共用部に配置。実験研究棟の閉鎖的なイメージとは異なり、明るさに満ちた空間となっている。

● ガスハイドレート研究所 二〇一四年度のメタンハイドレート調査を開始

ガスハイドレート研究所は、二〇一四年度の表層型メタンハイドレート調査を四月十五日に開始した。

この調査は、国のメタンハイドレート開発促進事業の一環として行われるもので、昨年度に引き続き産業技術総合研究所とともに、表層型メタンハイドレートの資源量把握を目指すもの。①広域地質調査、②詳細地質調査、③掘削調査、④電磁探査、⑤環境モニタリング調査の五つからなり、このうち、明治大学は①広域地質調査、③掘削調査、⑤環境モニタリング調査を担当する。

①の広域地質調査では調査船・第七開洋丸（芙蓉海洋開発）の船底に装備された音響観測装置を用いて、海底の微地形と海底下の構造を把握し、海底および海底下に分布が予想されるハイドレートマウンドとガスチムニーを探索。六月十五日までの約八週間で隠岐の西方・対馬海盆から隠岐トラフ、上越

沖、最上トラフ、北海道日高沖の各海域を調査する予定。③掘削調査では地質サンプルの取得を目指し、⑤環境モニタリング調査では、無人探査機（潜水艇）を用いた海底観察および長期モニタリング装置の回収と設置を予定している。

● ケネディ米国大使

明大で留学トークライブに出演

文部科学省の留学促進キャンペーン「トビタテ！留学JAPAN」の一環で、同省と在日アメリカ大使館は三月二十八日、キャロライン・ケネディ駐日大使を招いての留学トークライブを駿河台キャンパス・リバティホールにて開催。下村博文文科相やアイドルグループも出演し、会場には留学を希望する学生や報道関係者らが多数詰めかけた。

● 二〇一四年度入学式を挙げる

二〇一四年度入学式が四月七日、日本武道館（東京都千代田区）で開かれ、満開の桜が咲き誇る中、八千三百三十四人（学部生七千三百八十七人、大学院生九百四十七人）が明大生としての第一歩を踏み出した。

● OB社長

▽熊本銀行（銀行）〓竹下英氏（一九七四年法学部卒・六十三歳）

▽シンジエンタジャパン（農業・化学） 〓篠原聡明氏（一九八九年農学部卒・四十七歳）
▽埼玉りそな銀行（銀行） 〓池田一義氏（一九八一年商学部卒・五十七歳）

●OB町長

▽栃木県益子町長（四月十三日投開票）
大塚朋之氏（無所属③、一九八九年政経学部卒・四十八歳）

●商学部

千代田区が三ゼミナールを表彰

東京・千代田区の区制六十七周年記念日表彰式が三月十四日、同区のホテルグランドパレスで催され、商学部の熊澤喜章教授・小川智由教授・西山春文教授の三ゼミナールが、千代田区の商工振興に顕著な功労を果たした団体として表彰された。

この表彰は、駿河台キャンパスがある千代田区に功労のあった者を表彰するもので、二〇一三年度は「町会自治功労者」や「教育文化功労者」などの十二分野で、六団体を含む二百十八人が表彰された。明大の三ゼミナールが評価された点は、①熊澤ゼミナール・神田の空き店舗事業「なごみま鮮果」の八年間にわたる展開、②小川ゼミナール・フリースペーパー「CHYYOMO」の発行など、区の活性化を目指す八年間の活動、③西

山ゼミナール・「千代田区俳句カレンダー」の作成・配布による観光情報の発信。

●連合父母会、三十三人に教育振興賞

難関試験合格者を称える

連合父母会は、在学中に難関国家試験に合格するなどして、本学の教育振興に寄与した卒業生を表彰する連合父母会教育振興賞授与式を三月二十六日、駿河台キャンパス学生会館で執り行った。

二〇一三年度は国家公務員採用総合職試験の合格者九人と公認会計士試験の合格者二十四人の計三十三人に授与。卒業式後に開かれた授与式には、福宮賢一学長（父母会名誉会長）や大学役職者をはじめ、全国各地の父母会役員らも列席した。

●生田で地域連携

「まちなか研究室」から「まちなかギャラリー」へ

明治大学、専修大学、日本女子大学の三大学と川崎市多摩区でつくる「多摩区・三大学連携協議会」は三月十五日、同市・多摩市民館で「三大学連携フェア」地域社会と大学が取り組むコミュニケーションの促進」を開催。明大はブース展示のほか、地元商店会の協力を得て開設した「まちなか研究室」の取り組みについて農学部の本所靖博講師が報告し

た。「まちなか研究室」は、二〇一三年度の同協議会事業に採択された取り組みで、本所ゼミに所属する学生有志らによるプロジェクトチームが運営。商店会事務所の空き時間を利用して小学生の宿題などを手伝う寺子屋事業の開催や、毎年五月と十月ごろに行われる商店街の「わくわくナイトバザール」の企画・運営、スマートフォンで地元エリアの情報を得られる仕組み作りなどを実現した。

●中野区と相互協力協定

明治大学は三月二十七日、中野キャンパスのある東京・中野区と相互協力に関する基本協定を締結した。

中野区役所で行われた協定書調印式には、明大から福宮賢一学長、藤江昌嗣社会連携機構長（経営学部教授）、須田努地域連携推進センター長（情報コミュニケーション学部教授）らが、中野区からは田中大輔区長、金野晃副区長、田辺裕子教育長、竹内沖司政策室長が出席。福宮学長と田中区長はそれぞれ協定書にサインすると、今後の連携強化を誓って固く握手を交わした。

●山形・天童市が明大生の提言採択

市への寄付が急増

明治大学創立者の一人、宮城浩蔵の出身地である山形県天童市で、明大生のグループ

が提案したふるさと納税制度(※)を活用した地域活性化政策が採択された。四月一日から同市で学生の提言を生かした寄付の募集を開始したところ、二週間で千三百人を超える応募があり、市の担当者らは「想定以上の申し込み数。手応えを実感している」と反響を喜んでいる。

※ふるさと納税

出身地や応援したい自治体などに寄付をすると一定の税控除が受けられる制度。寄付した金額のうち、二千円を超える分については原則として所得税・住民税から控除される。

●「リバティアカデミー」開講

JOC竹田会長がオープン講座で講演

本学の生涯学習拠点であるリバティアカデミーは四月十二日、二〇一四年度の開講オープン講座「東京オリンピック・パラリンピックに向けて」を、駿河台キャンパスのアカデミーホールで開催。講師に日本オリンピック委員会(JOC)の竹田恆和会長を迎え、約五百人の参加者とともに「TOKYO 2020」への気運を盛り上げた。

講座に先立ち、本年度よりリバティアカデミー長に就任した須田努情報コミュニケーション学部教授が開講のあいさつに立つとともに、竹田会長の紹介を行った。

●世界に広がる協定校

四十一カ国・地域二百三十三大学と協定

明治大学は、デ・ラ・サール大学、オムスク国立大学、キエフ国立大学と大学間協力協定を、南洋理工科大学人文社会学部と学部間協力協定を、新たに締結した。協定校は四十一の国と地域で、二百三十三大学(学部間協定など含む)となった(四月二十三日現在)。

●国連ユース・ボランティア帰国報告会

ルワンダでの活動を明大生が報告

国連ユース・ボランティアに参加した学生の帰国報告会が三月二十七日、国連大学(東京都渋谷区)で行われ、明治大学から参加した積田和茂さん(政経4)が約六ヵ月間の活動内容を報告した。

国連ユース・ボランティアは、国連ボランティア計画(UNV)と大学が連携し、学生を開発途上国へボランティア派遣するプログラムで、学生に地球規模の課題解決にチャレンジする機会を提供し、未来のリーダーを育成することを目的としている。UNVと基幹校の関西学院大との間で締結した協力協定に基づき、明治大・上智大・明治学院大・立教大・東洋大を加えた計六大学が参加しており、二〇一三年度は十二人の学生が派遣された。

●セルビア駐日大使が来訪

セルビア共和国のネナド・グリシッチ駐日大使らが四月二日、駿河台キャンパスを訪れ、学長室で福宮賢一学長、勝悦子副学長(国際交流担当)と、学術交流に関する意見交換を行った。本学はセルビア共和国の首都にあるベオグラード大学と二〇〇九年に大学間協定を締結し、学生の交流を進めている。

●ニューヨーク州立大学長らが来訪

ニューヨーク州立大学バッファロー校のサティシュK・トリパティ学長、ステファンC・ダネット国際教育担当副学長らが四月十五日、駿河台キャンパスを訪れ、リバティタワ一貴賓室で勝悦子副学長(国際交流担当)、大六野耕作政治経済学部長らと懇談した。

同大は二〇一二年十月に本学と大学間協定を結んでおり、今回は今後の学生交流の発展に向けた意見を交換するため来訪した。

●セーデルトーン大学長表敬訪問

交換留学生らと懇談

昨年、本学と学術協定および学生交流覚書を締結したスウェーデンのセーデルトーン大学モイラ・フォン・ライト学長らが四月十八日、駿河台キャンパスに来訪。リバティタワ一貴賓室にて福宮賢一学長、勝悦子副学長(国際交流担当)らと懇談し、今後のさらなる連携強化を図ることなどを確認し合った。

スウェーデンは英語のみでの留学が可能なことから、交換留学先として毎年学生の人気を集めている。セーデルトーン大学はスウェーデンで二校目の協定校で、今年四月より本学の中嶋勇輝さん(国日3)を派遣している。

● 第一次世界大戦から百年

ケンブリッジ大歴史学者エバンス卿が講演

政治経済学部は四月四日、ケンブリッジ大学ウォルフソン・カレッジの学長で著名な歴史学者のリチャード・エバンス卿を招き、「1914/2014:歴史からの警告?」と題した講演会を駿河台キャンパス・リバティホールで開催した。エバンス卿は、第一次世界大戦勃発から百年の節目となる今年、歴史を振り返り、戦争について再考することの重要性について説き、会場を訪れた学生ら約百五十人は熱心に耳を傾けていた。

● 国際日本学部

中野キャンパスで留学生歓迎会

国際日本学部国際交流学生委員会は四月十一日、中野キャンパス・クロスフィールドラウンジで「Welcome Party」を開催した。これは留学生の大学生活サポートと、日本人学生との交流などを目的に活動している同委員会の企画イベントの一つで、留学生、中野キャンパスの新生ら約百九十人が参加した。

● スポーツ表彰「感動をありがとう」

十一団体・百四人を表彰

明治大学は三月二十五日、二〇一三年度のスポーツ表彰式を駿河台キャンパス・アカデミーコモンで挙行了。これは、国内外の大会で優勝するなどスポーツ活動で顕著な成績を残した体育会の団体・個人を表彰するもので、明大体育会長を務める福宮賢一学長、三木一郎学務担当常勤理事をはじめ役員・職者、体育会各部長・監督らが列席し、受賞した十一団体・百四人の栄誉を称えた。

● 「HAPPY NEWS」大学生大賞

個人・グループともに明大生が受賞

日本新聞協会主催の「HAPPY NEWS 2013」大学生大賞贈呈式が三月十一日、駿河台キャンパス岸本辰雄ホールで行われ、大学生大賞(グループ)に明大スポーツ新聞部、大学生大賞(個人)に谷口剣太さん(情コミ4)が選ばれた。

HAPPY NEWSは、同協会が、心が温かくなったり、勇気づけられた新聞記事と、その理由を書いたコメントを募集して毎年四月に優れた作品を表彰しているもの。十回目の今回は、国内外から二千二百七十一件の応募があり、大学生部門では九百十二件が集まった。明スポは百四十五件の切り抜きを部員全員で応募した。

● 植村直己冒険賞

駿河台キャンパスで受賞者発表

体育会山岳部出身で世界的な冒険家の植村直己氏(一九六四年・農学部卒)の名を冠した「植村直己冒険賞」(兵庫県豊岡市主催)の第十八回受賞発表が三月十八日、駿河台キャンパス紫紺館であり、厳冬のカナダで十九年で二万二千キロを踏破した冒険家の田中幹也氏の受賞が発表された。

● 二〇一四年度東京六大学野球

春季リーグ開幕

東京六大学野球の二〇一四年度春季リーグ戦は四月十二日、神宮球場で開幕した。体育会硬式野球部は十二、十三日の東大戦に連勝し、リーグ戦三連覇に向け、幸先の良いスタートを切った。

初戦の十二日は一回二死一、三塁の好機で五番眞榮平大輝選手(政経4)が左前適時打で先制。八回にはエース山崎福也選手(政経4)が今季第一号3ランホームランを放ち、試合を決めた。山崎選手は投球でも試合を引っ張り七回無失点の活躍をみせた。

◆ 駿台トピックス

● 四月二十三日 第二回ビジネス勉強会開催

「グローバルビジネスと国際金融」と題した今回の講師は、佐藤健副会長(株)ネクスト常

勤監査役)。昭和四十四年商学部卒で、銀行勤務を経て同四十七年大学院商学研究科修士課程終了の後に、オリエント・リース(現オリックス)に入社、インドネシア、フィリピン、オーストラリア、シンガポール、そしてニューヨークと二十三年間五カ国で海外事業拡張をリードして専務執行役も務められた豊富な国際金融ビジネス経験を受講会員にご講話いただき、質疑応答や意見交換を二時間余にわたってお願いしました。

佐藤講師は、まず、難しく考えられがちな金融も、「頭の中のシナリオで考えていくと楽しくなる」と、身近な存在としていくことの大切さを説きました。そして、我が国がバブル経済の鎮静化を誤って中国や韓国の台頭を許してしまったように、金融政策の失敗は国力の衰退にもつながりかねないし、企業も「強い通貨の国でビジネスするべきだ」と各種データなどを提供して解説してくれました。また、「ヘッジファンドと国際金融市場」[Activist (物言う株主)]などのとらえ方をあらためて押えた上で、米国の滞在中に起こった九・一一同時多発テロ事件以後に世界経済が大きく動き、サブプライムローン問題からリーマンショックへと悪循環もあり、「今はますます国際金融に対する強い認識と決断が求められている」と力説されました。さらに、その講義内容の全般を踏まえて、

「グローバルとは、国際とは何か？」とあえて問いかけて、日本だけで言われる言葉になってはいないか、と問題提起がありました。日本人は国際社会でややもすれば相手を慮り過ぎ、考え方にも甘さが目立ち、価値観でも汗水たらして働くことを美德とし、仕事よりオフィスに在ることを重要視してしまう。また、国際情勢が予断を許さない中で、移民などの労働人口増加策などにも消極的なように、「リスクの捉え方や危機意識の欠如している」と指摘していました。

それだけに、多くの参加者から強い関心が示された母校明治大学と連携した国際大学の今後についても、「願ってもないことで、是非とも協調を深めて大きな成果を得てほしい」と大きな期待感を示し、併せて現役学生やビジネスマンの英語教育の重要性や積極的な海外へのチャレンジが眉の急であることも強調していました。

この日は折しも米国のオバマ大統領が来日、高まる国際意識の中でタイムリーな勉強会となりました。

◆退会会員

(平成二十五年四月～二十六年三月)

赤塚善一、宇佐美勝朗、大牟田伸洋、奥澤明男、金子芳彦、武原誠郎、玉田健治、徳永豊、永塚昇(故人)、長谷公治、舟橋達彦

(故人)、松下晴彦、矢田貝敦男、山田哲夫

(敬称略)

◆六十周年記念例会出席者

○会員出席者

青木孝、青木幹則、青柳勝栄、秋山隆敬、
 坏昭二、浅井宏、安達明正、足立吉松、有賀隆治、池田一義、池田勝也、石川かおり、石橋良一、石原道勝、石原裕司、伊東正博、伊原敏雄、岩田守弘、上西紘治、同令夫人、同ご友人四人、宇敷和章、宇田川雄弘、打出満、海野美津雄、江崎友次郎、同令息、大原幸男、大前実之、大村託現、大山卓良、奥村勝広、同ご友人、小野寺弘三、加賀美猛、笠井正弘、勝俣正義、荏部彰夫、河村博、木下重次郎、木村健一、清野明男、日下豊顕、熊崎勝彦、栗原権右衛門、黒子昇、河野典男、小柴和弘、兒玉康資(代理)、小林一光、小谷野正道、小山修、小山有彦、根田哲雄、根田吉雄、斉藤春夫、同令夫人、齋藤柳光、坂田貞夫、坂田英夫、坂本孝行、桜井保彦、同ご友人、佐藤和正、佐藤健、佐藤仁、同令夫人、佐藤寛、眞田瞳、澤野太嘉嗣、椎名茂樹、志田憲彦、白井宏一、杉浦伸二、鈴木勝利、鈴木紘一、鈴木隆志、鈴木紀行、同令夫人、瀬下和夫、瀬戸正道、宗邦雄、相臺志浩、園田英次、高澤徹、高橋郁夫、高橋徹、同令夫人、高橋淑浩、同令夫人、武内裕、同

令息、武田宣夫、竹中繁夫、田代恭一、同
友人、田中等、田中良、谷慈義、谷原誠、田
村駿、天童美徳、同友人、当山明彦、徳丸
平太郎、冨井征也、冨田浩志、中川敏洋、中
島御幸、長瀬幸泰、同令夫人、中西幹育、中
根武、長堀守弘、長見茂、中村豊、長吉泉、
並木洋一、西尾勝治、西崎誠次郎、西山武
夫、二宮充子、二宮忠、野口昌宏、橋口隆
二、蓮池信之、長谷川進一、濱崎治、林威
樹、樋口郁夫、同令夫人、平川清、同友人
人、比良田幸雄、弘中徹、冨田和彦、同友人
人三人、冨田浩志、冨山紘太郎、冨士豊、藤
巻伴英、古田英範、堀和子、同友人、前川
一郎、眞壁八郎、益子哲郎、松崎優子、的場
栄一、摩尼和夫、丸山律夫、宮下隆、向井眞
一、同友人、向殿政男、村岡健、村瀬尚
男、室井恵明、山口大介、山口政廣、同友人
人、山田憲典、山田朝彦、同令夫人、結城和
正、義江邦夫、吉村國廣、渡辺紀之、渡邊洋
三

○明治大学ご招待者

日高憲三、冨宮賢一、飯田和人、三木一
郎、松本隆榮、鎌倉行男、針谷敏夫、平井克
彦、清水秀夫、中村義行、林務、山口政信、
山上雅隆、伊藤光、長尾進、早瀬文孝、安部
悦生、飯田年穂
(敬称略)

【編集後記】

今年も桜咲く四月七日に武道館にて
入学式が挙行され、八千三百三十四人の
新入生を迎えました。明治スピリットを
胸に、多くの友人をつくり、個々を
磨いて社会に貢献できる人間になって欲
しいと心から祈念します。

○「明治魂」の代表格の一人は冒険家植
村直己(昭和三十九年・農卒)で、「冒
険とは生きて帰ること」と豪語していた
が、冬のマッキンリーで消息を絶って今
年で三十年になる。山岳部時代にはコロ
コロ転ぶことからドンダリとあだ名さ
れ、落ちこぼれだったようだが、密かに
日本の山岳行を繰り返し、その陰の努力
が実って世界へ挑戦! モンブラン、キ
リマンジェロ、アコンカグア、エベレス
ト、マッキンリーの五大陸最高峰単独登
頂の他、アマゾン河単独筏下り、北極点
犬ゾリ単独到達など登山家、冒険家と
して世界に名を成した。本学は一九九六
年に「植村直己冒険賞」を創設し植村氏
の精神を継承、人々に夢と希望、勇気を
与える創造的な業績を表彰するもので、
今年で十八年目になり毎年全国から対象

者が表彰されている。祈継続!

○新たな国産エネルギーとして注目され
ている表層型メタンハイドレートの日本
海側での調査が本格化した。経産省の委
託事業として産総研と明治大学ガスハイ
ドレート研究所(代表者松本良特任教授)
は四月から約二ヶ月間にわたりその資源
量を把握するため調査船を出し、初めて
海底下一〇〇メートル近くの掘削調査を
行っている。メタンハイドレートはメタ
ンと水から成る氷状の固体物質で火を付
けると燃焼するため「燃える氷」と言わ
れ、発電や都市ガスに利用できるエネル
ギー資源になる。日本周辺の海底には年
間の天然ガス使用量の約百年分以上が分
布していると言われ、近い未来の純国産
エネルギーとして大いに期待でき、同時
にこの調査は学術的にも資源探査の上で
も極めて重要なテーマである。

文武両道の明治スピリットをここでも
発揮して明治大学のブランドを全国とし
て世界に轟かせて下さい。祈成功!

(有賀 隆治)